

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：32665

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K22221

研究課題名（和文）現代中国農村中学校における教師の「生活指導」に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Teachers' "Life Guidance" of the middle school in Contemporary Rural Rural China

研究代表者

劉麗鳳 (LIU, Lifeng)

日本大学・文理学部・助手

研究者番号：20875801

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、中国農村部の中学校教育における「生活指導」の側面に焦点を当て、その実態とメカニズムを学校（教師）および家庭（親）の両方から明らかにすることである。計画当初は、現地でのフィールドワーク調査を実施する予定であったが、研究期間が新型コロナウイルスの流行と重なってしまったため、調査を実施することができなかった。そこで農村部の親を対象としたオンラインインタビューを実施しながら研究を進めてきた。本研究から明らかとなったのは、農村部の親たちは学校教育の役割を「学習指導」に限定し、家庭（親）が子どもの教育の最終的な責任者と捉えるなど、家庭教育の責任範囲を広く捉えていたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国の学校教育は「進学至上主義」と特徴づけられるように、「学習指導」に偏重していることがこれまで指摘されてきた。しかし、農村部の学校統廃合政策が進み、子どもたちの学校生活が長期化するなか、「生活指導」の必要性が高まってきたと言える。こうした状況を踏まえて、学校教育における「生活指導」の実態やそのメカニズムを明らかにすることは、現在の教育課題や今後の教育政策を考察するうえで重要であるとともに、学校教育の役割および意義を再考するうえでも重要な意味を持つ。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to focus on the aspect of "Life Guidance" in middle school education in Rural China, and to clarify its reality and mechanism from both school (teachers) and home (parents) perspectives. The original plan was to examine the above questions through a survey at the school site, but the survey could not be conducted since the research period coincided with the outbreak of the covid-19. Online interviews were conducted with parents in rural areas, from which the following findings emerged. That is, despite the high expectations and need of "life guidance" as school life was prolonged due to the rural school consolidation policy, parents limited the scope of school responsibility to "learning guidance" and viewed the home (parents) as ultimately responsible for their children's education.

研究分野：教育社会学

キーワード：生活指導 中国農村部 学校統廃合 寄宿生活 農村部の親

1. 研究開始当初の背景

中国は「二元化社会」とも言われるように、経済や教育、社会福祉制度等の面において都市部と農村部の間で大きな格差が生じている。学校教育については、とりわけ学校教育の質や進学機会等の側面に課題がある。その中でも、農村部における義務教育段階の中退率の高さが注目されてきた。中国農村部の中学校では、多くの子どもたちが中退している。これまでの研究では、「進学至上主義」が学校文化に根付くなか、学校教育の「教科指導」が重視される一方、生徒の学校生活の側面(=「生活指導」)が軽視される傾向があることが指摘されてきた。農村部の子どもたちの学校中退問題を改善するためには、その「生活指導」の側面が改善されていく必要がある。学校教育の「生活指導」の側面に注目すべきもう1つの要因は、農村部の子どもたちの学校生活に変化が生じていることである。中国の農村部では、学校統廃合政策により、多くの子どもたちが家庭を離れ、学校で寄宿生活を送るようになった。子どもたちの学校生活が長期化するなか、「生徒の生活をどのように指導すべきか」という課題は、学校現場においても学術的にも考察されるべき課題であると言える。

上記の課題を検討するにあたり、農村部における学校教育の現状と、農村部の家庭の教育的ニーズの両方に目を向ける必要がある。中国の都市部では優秀な教師が集中し、優れた教育方法や教育成果をあげているのに対して、農村部では学校教師の「質」や「量」の確保が課題となっている。「教科指導」に加えて、「生活指導」の必要性が高まるなか、農村部の学校教師はその変化をどのように捉え、対応しているのかを検討する必要がある。また、子どもたちが親元を離れ、寄宿生活を送るなか、農村部の親はその変化をどのように受け止めているのか、また学校教育や教師に対してどのような期待を抱いているのか、これらも検討すべき課題である。

2. 研究の目的

本研究では、中国農村部の学校教育の「生活指導」の側面に焦点を当て、「生活指導」に関する教師や親の認識を明らかにすることを当初の研究目的とした。上記の研究目的を達成するために、以下二つのリサーチクエスチョンを立てた。1つ目は、中国の農村部の中学校における「生活指導」の実態の解明である。中国では農村部と都市部に共通して、生徒の学業成績や進学可能性といった「教科指導」側面が重視される傾向があることが指摘されてきた。その中で、農村部の学校において「生活指導」がどのように実践されている/いないのか、この点を明らかにする。2つ目は、中国農村部の親と教師が、学校・教師や親の責任範囲や役割をどのように認識しているか、についてである。既述したように、学校統廃合政策が進む中国の農村部において、農村部の子どもたちにとって、学校は「学習する場」だけでなく、「生活する場」としての色合いが強まっている。「子どもたちの生活や生き方をどのように指導していくのか」は、検討すべき重要な課題になりつつある。そのなかで、農村部の学校(教師)や家庭(親)がそれぞれどういう役割や責任を担っており、またどういう役割や責任を担うべきと考えているのかについて検討する。すなわち、子どもの教育における学校と家庭の責任範囲や役割意識に関する中国農村部の教師や親の認識の究明である。

3. 研究の方法

本研究の当初の計画では、中国農村部の学校教師および親に対してインタビュー調査を行うとともに、学校現場でフィールドワークを実施する予定であった。しかし、新型コロナウイルスの流行が本研究課題の実施期間と重なってしまったことにより、調査を予定していた中国の学校が閉校やオンライン授業に切り替えたため、現地調査を実施することができなかった。そこで、研究の目的に示した2つ目のリサーチクエスチョンを中心に、これまで研究・調査を進めてきた。現地調査は叶わなかったものの、オンラインの形で中国東北部の農村地域に在住する母親に対してインタビュー調査を実施することができた。インタビュー調査では、「生活指導」を含む農村部の学校教育の現状に対して、母親たちはどのように認識しているのか、子どもたちの学校教育に対して、母親たちはどのように関わっているのか、家庭と学校の責任範囲をどのように認識しているのかの3つについて、聞き取りを行った。以下が本研究を通して得られた結果である。

4. 研究成果

本研究では、中国農村部在住の母親を対象としたインタビュー調査から、中国農村部の学校教育の「生活指導」の実態と、学校(教師)と家庭(親)の責任範囲や役割認識に関する母親たちの意識を検討してきた。インタビュー調査の結果から、以下のことが明らかにされた。

まず、「進学至上主義」が学校文化に根付く中国農村部の学校において、依然として「学習指導」が学校教育の主要な役割であると捉えられている。「生活教育」(子どもの生活経験を教育活動のなかに据える教育理念とその歴史的系譜)が近年、中国の教育研究や学校教育分野で注目されるようになってきたが、学校現場レベルではそのような取り組みがなされておらず、その実践蓄積はいまだに薄い。「進学至上主義」を背景に、農村部の学校教育における「生活指導」が、いまだに十分に重視されているとは言えない状況にある。

次は、子どもの教育における学校(教師)・家庭(親)の責任範囲や役割意識に関する母親の認識である。中国の農業従事者の学歴が低いことがこれまで指摘されており、本研究対象の母親たちの学歴も教師より低く、家庭の文化資本も乏しい状況にある。しかし、母親たちは子どもの教育を非常に重視しており、家庭(親)の責任を強調する姿勢がみられた。とりわけ、学校教育や教師の役割を「学習指導」に限定して捉え、「学習指導」以外の側面(=生活指導)を強く求めない傾向がみられた。母親たちは学校内の秩序や管理体制に高い関心を示し、逸脱的な下位文化が子どもに悪影響を与えることを危惧していた一方、子どもの学業達成において「教師と良い関係を維持する」ことに価値を置いているため、そうした心配や要望を教師に伝えることはほとんどない。

そのなかで、農村部の親が主体となり、子どもの学校適応を保証しようとする親たちの対処戦略は注目に値する。既述したように、農村部における学校統廃合が進むにつれて、農村部の子どもが学校で寄宿生活を送ることが一般的となってきた。しかし、学校教育における「生活指導」がほとんどなされていないなか、親たちが学校や教師に任せるのではなく、子どもが学校生活を順調に送るために様々な対処戦略を主体的に練り上げていた。その中でも、学校側の管理体制や逸脱的な下位文化に不安な親たちは、学校寄宿を回避しようと、親(主に母親)による「陪読」(子どもの学校教育に付き添うために学校付近で住居を借り、子どもの衣食住の面倒を見たり、教育的サポートをすること)を積極的に進めていた。

限られた事例による検討ではあったが、農村部の学校教育において、「生活指導」の必要性が叫ばれているものの、学校現場では依然として「学習指導」が重視されていた。母親たちの語りからも「生活指導」を学校教育に期待する声が聞かれたが、そうした要望やニーズは学校教育に変化や変革をもたらすほど影響力を持っているとは言えない。本研究では、学校教育の中心的な役割が「学習指導」に集中するなか、「生活指導」は家庭(親)の責任や役割に収斂されていく傾向が確認された。しかし、本研究では家庭の階層性による違いや影響を検討できていないという課題がある。家庭階層により、学校教育への期待や親の役割認識、さらに家庭・学校間の相互行為の在り方に違いが見られる可能性があるため、今後は引き続きそれらの課題に取り組んでいきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 劉麗鳳	4. 巻 第105号
2. 論文標題 母親たちのしつけと教育戦略：中国農村部の事例に基づいた検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 研究紀要	6. 最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 劉麗鳳
2. 発表標題 学校教育における「生活指導」がどのように語られるのか 中国農村部の親を対象としたインタビュー調査から
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 劉麗鳳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 253
3. 書名 中学中退 中国農村中学校の生徒と教師のエスノグラフィー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------